

第3回 議事録

会議名：第3回新型コロナウイルス感染症検討会

日時：2020年10月7日 13:00~15:00

場所：北野建設本社ビル8階

出席者：唐澤座長、河野副座長、土田委員、星野委員、杉山(公)委員、杉山(裕)委員、新津委員、金澤委員、加藤委員、富田オブザーバー、田口オブザーバー、宮田オブザーバー、富井オブザーバー、北野会長、岩尾専務、赤穴事務局長、芳賀会長補佐、宮沢局員、芳野書記

審議内容

1、前回議事録の修正確認

内閣官房のコロナ対策室への申請は、国土交通省と文部科学省の連名で行う、に修正を（富田オブザーバー）、連名でよろしいですね（唐澤座長）、手続きは観光庁で行う。掲載までには時間を見る見込み（富田オブザーバー）

2、事前配布資料の説明

ガイドラインの対象は事業者、このような対策を取っているので安心して来ていただきたいという趣旨でスキーヤー向けに「はじめに」を加えた。

前回との違いは、1、索道関係の（1）共通事項、索道事業のガイドラインにはフェイスシールドが入っているが、冬場ということで削除し、ネックウォーマーを追加。「ゴーグル、サングラス」は削除、（3）普通索道の箱型搬器については、具体的に書きすぎているとの指摘もあったが、取りあえず、索道事業のガイドラインと平仄を合わせている。議論を踏まえて修文も。2ページの上のほう、レンタルも加えた。スキースクールについては、具体的な数字は落とした。3ページの（7）、「公認校」は削除、4ページ、索道事業の従業員対策を記載していたが、総合的なものが良いとの指摘、星野委員からの具体的なご提案を受けて修文、逆に、索道については日鋼協のガイドラインを参照することとした。

3、ガイドライン案についての討議

4ページ、索道の従業員対策を特記するのはどうか、削除願いたい（新津委員）、承知した（唐澤座長）。2ページ4、スキースクール（1）受付の5番目、「非接触型での清算

を奨励する」、の「清算」を「決済方法」に、「発熱等の風邪症状及び臭覚味覚障害の際は」を「発熱等の風邪症状や、臭覚味覚障害等が確認された際は」に、この次の文も同様に修文したほうが良いのでは（田口オブザーバー）、そうします（杉山（公）委員）。3ページ5宿泊施設の（2）、「煩雜」は「頻回」が良いのでは（田口オブザーバー）、そうします（岩尾専務）。ガイドラインは作っておしまいではない、1ページ、普通索道の箱型搬器の書き方は具体的過ぎて制約が大きいと思う（宮田オブザーバー）。具体的な制限措置を書いてはいるが、よく読んでいただければわかるが、努めるということで制限はしていない（新津委員）。鉄道関係のガイドラインを作った経験からすると、ガイドラインの非常に細かい部分に関する利用者の意見もあり、また、後から緩めると後退したという批判を受ける恐れもある。あまり具体的に書かないほうが良いのでは。また、「努める」の議論は文字だけをギリギリと解釈した場合には判断が分かれてしまう懸念がある。（宮田オブザーバー）。ゴンドラもいろいろある。何らかの対策は取らざるを得ないが、具体的に書きすぎるとかえって臨機応変の対応が取れずに、トラブルを招く恐れがあるのは気になる（金澤委員）。具体的な案を示していただければ検討する（新津委員）。今の書きぶりでもちゃんと読んでいただければ具体的な制約をしていないことは分かるはず、ただ、トラブルを招く恐れもあるので、抽象的に「利用状況等を踏まえ、感染防止のための適切な措置を取ることにより安心できる搬器内環境を確保するよう努める。」とするのはどうか（岩尾専務）。このくらいのほうが良い（金澤委員）。これなら日鋼協のガイドラインとも矛盾しない（唐澤座長）。人々に安心感を与えるのは消毒液の設置、マスク等の着用、換気、拭き上げ消毒、の4項目だと思う。これらを共通項目として別書きはどうか（星野委員）。これは事業者向けのガイドライン。共通項目にしてしまうと、例えばスキースクールの関係者は共通項目と二か所見なければならなくなる。かえって不便にならないか（岩尾専務）。星野委員のご提案、ご趣旨は分かりますが全体の構成が変わってしまい、議論のやり直しになる（唐澤座長）。ご指摘の4項目、これをそれぞれの箇所に入れるのはどうか。後は、レストランの所に換気を入れるぐらいで網羅できるのではないか（富田オブザーバー）。大きなカフェテリアなどは窓があかないものも多いが設計上換気は十分にされているはず。換気と書いてしまうと窓があないのでスキーヤーとのトラブルを招く恐れ（金澤委員）。今のままが良いのでは（岩尾専務）。

ガイドラインについてはこれからも改定をして行くという前提で今回はこれで取りまとめる（唐澤座長）。

4、自由討議

官庁の方も含めそれぞれの団体が集まってこういう協議をする場ができたのが収穫。雪に虐げられてきた地域が逆に雪で食べてゆけるようになったのはスキーのおかげ。10年前にスキー発祥100周年イベントを開催。次の100年まで待てない。2021年が110周年に当

たる。10年ごとに盛り上げてゆけないか。日本スノースポーツ＆リゾーツ協議会の中では110周年事業を進めてゆくことで決定済み。具体的には、今後、組織づくりを含め皆様方と相談してゆきたい（河野副座長）。

10年ごとに行うことに賛成。毎年軽井沢で長野県がアジア全体のスキー場開きという位置づけでウインターミーティングを開催。これを盛り上げてゆきたいが今年はコロナで縮小せざるを得ない。来年末に向けて110周年として一緒に取り組んで行けないか（金澤委員）。

2021年は12月まである。100周年の時もそういうことで2シーズン、イベントを行った。来シーズンは大々的にイベントができるのではないか。また、休日が増えるとスノースポーツの活性化につながる。1月12日をスキーの日の休日にする運動と一緒に進めて行ければと思う（河野副座長）

いかに多くの人に雪山に来ていただくかが肝要。単体では困難。それぞれの団体の活動も点であり線でつながっていない。東京の次は北京。マスコミの向く力をうまく使えないか。いろいろな活動をうまくつないでマスコミに取材に来てもらうようにできないか（杉山（裕）委員）。

110周年に関してはプロスキー教師協会も全面協力したい。協議会で企画を進める段階からぜひ、30代の男女に入ってもらい、次の120周年の主役になってもらう、それぞれの団体には発信力のある人もいるので点がつながればよい（杉山（公）委員）。

これは昭和10年のポスター。「スキーに行こう鉄道で」、というキャッチコピー、スキー大会を見るための臨時列車まで出していた、国を挙げてスノースポーツを運営していただいていた、こういうこともあった（河野副座長）。

110周年はぜひ進めてゆきたいが、どういう企画をどう進めてゆくのか、具体的な話を聞きたい（新津委員）。

日本スノースポーツ＆リゾーツ協議会の中に委員会を作つてその中で進めてゆきたい。110周年に限らず、スキー業界活性化委員会等いろいろな委員会を作りながら、その中で検討していただいたものを皆様方で検討していただき実現をして行くような組織になればと思っている（岩尾専務）。

我々はスノーリゾート、スキー場やホテル旅館を運営している。オーナーは世界中にいる。ビーチリゾートやその候補地は世界中にある。スノーリゾートの開発適地はほとんどないうえ気候変動でどんどん減少。日本の冬山は非常に魅力的。スキーをしなくとも、例

えばゴンドラに乗ってテラスに上がって景色や雪遊び、コーヒーを飲んで降りるだけ、それでも次の機会には滑ってみよう、冬山のすばらしさを知っていただくことがこそ野の拡大につながるのではないか。また、山の良さを知っていただくには5連泊以上の長期滞在を増やすことが重要（加藤委員）。

いろいろな世代が来るほうが活気がある。スノーリゾートも全世代型を目指すべきでは（唐沢座長）。

スキー連盟としてもいろいろなイベントをやっているが、単体よりも連携したほうがより有効（土田委員）。

スキー人口は減少傾向。ただ、スキー連盟の会員は8万人以上、海外や他のスポーツと比べても比べ物にならないくらい多い。インバウンドもある。恵まれた環境にあるが安住せずスキー人口を増やす努力が必要。プライバシーに配慮しつつ、スキー愛好家たちのデータの活用を図ることが肝要（北野会長）。

今回はコロナ対策が主になったが、スノースポーツの将来についての議論の足掛かりになればよい（唐沢座長）。